

2010年3月期 第3四半期 決算概要

2010年1月27日

NECエレクトロニクス株式会社
代表取締役社長 山口 純史

<http://www.necel.com/ir/ja/>

I. 2010年3月期 第3四半期 業績概要

- フリー・キャッシュ・フローは黒字維持
- 半導体売上高は、SoCの不調をMCU増収でカバー
- 営業損益は前四半期比で大幅改善

II. 2010年3月期 業績見通し

- 第4四半期の業績は、生産増により売上・損益ともに改善の見込み
- 通期業績の見通し(09年12月24日発表、日本会計基準ベース)は据え置き

(注)当社は連結財務諸表作成に関する会計基準を「米国基準」から「日本基準」に変更しております。次頁以降は日本会計基準で作成しております。

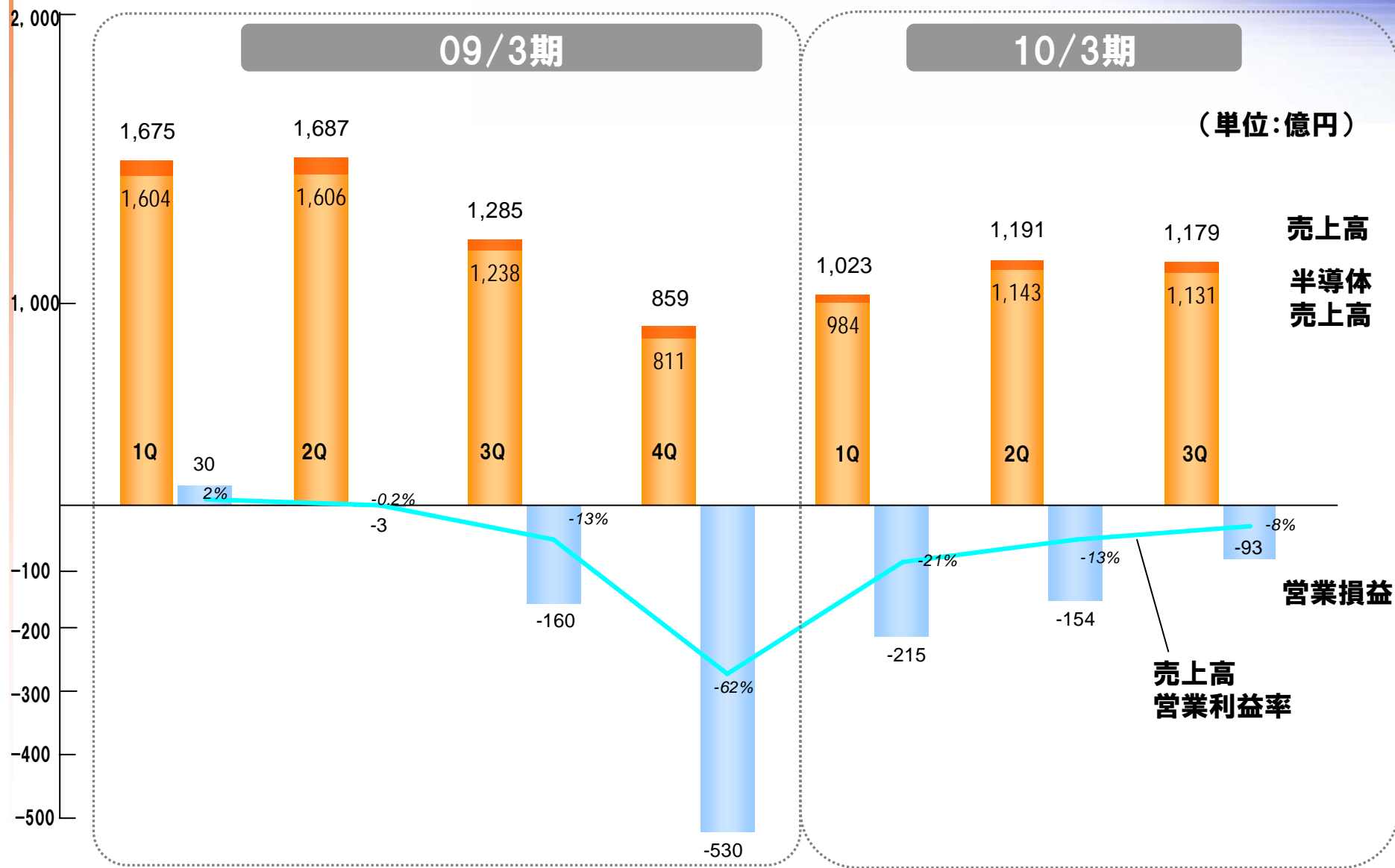
I. 2010年3月期 第3四半期 業績概要

II. 2010年3月期 業績見通し

業績サマリ

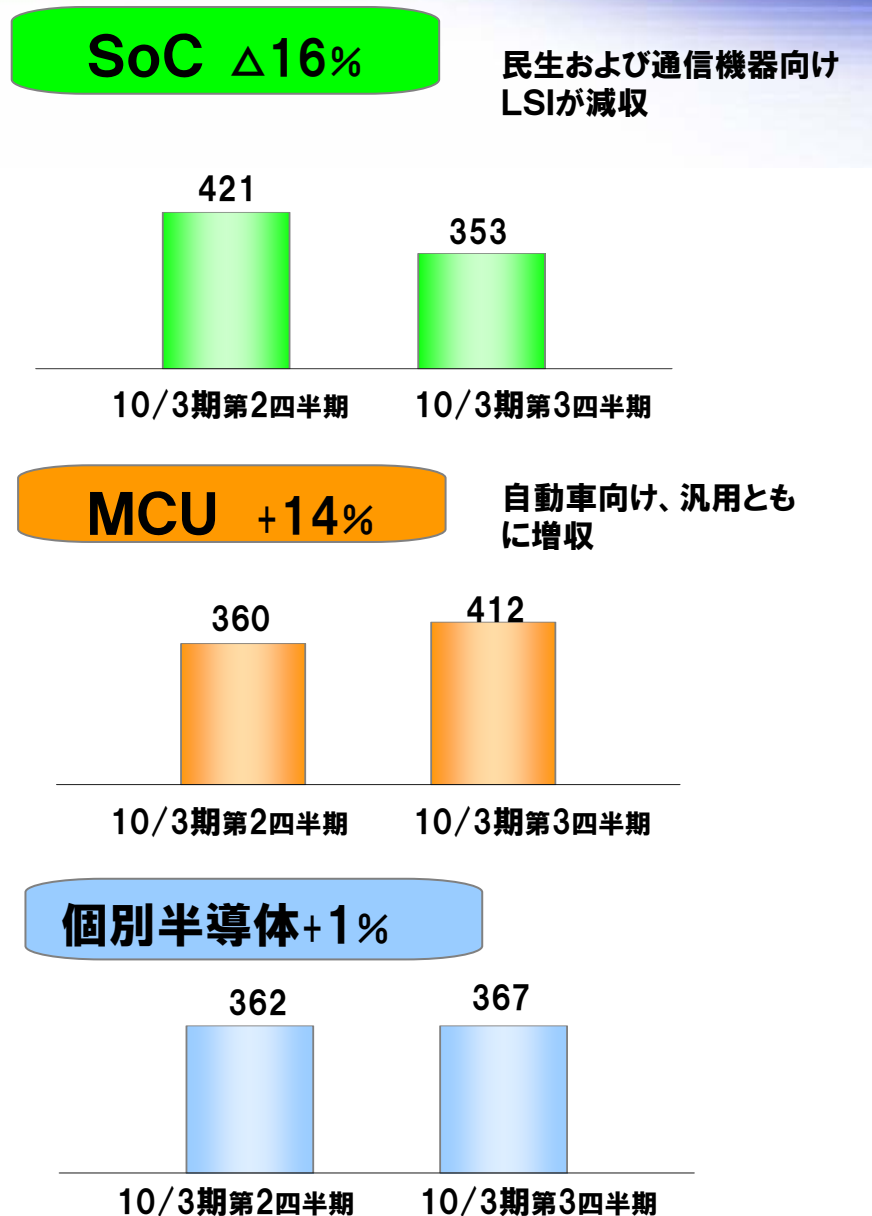
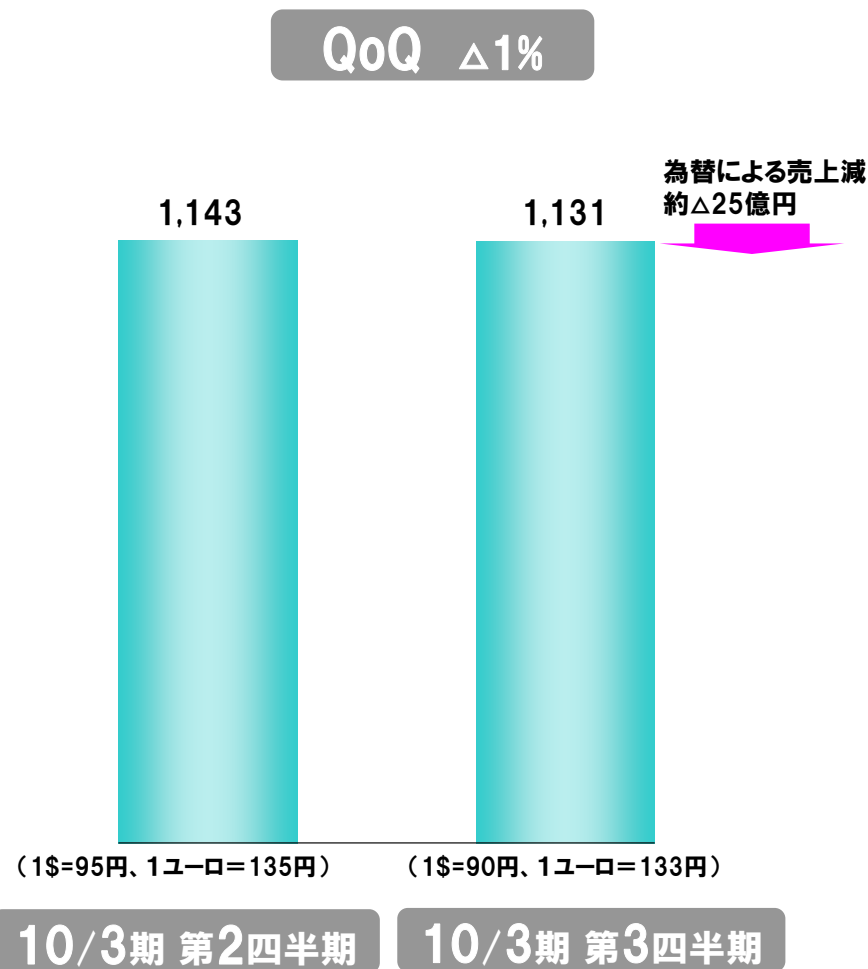
(単位:億円)	10/3期				
	3Q, 12/31			9ヶ月累計	
	実績	前年同期比	前四半期比	実績	前年同期比
売上高	1,179	△106	△12	3,392	△1,255
半導体売上高	1,131	△107	△12	3,258	△1,190
営業損益	△93	+67	+61	△462	△329
経常損益	△113	+75	+51	△491	△307
当期純損益	△143	+59	+38	△541	△330
(為替レート)					
1US\$=	90円	11円高	5円高	95円	9円高
1ユーロ=	133円	4円高	2円高	133円	21円高

四半期別業績推移～日本会計基準

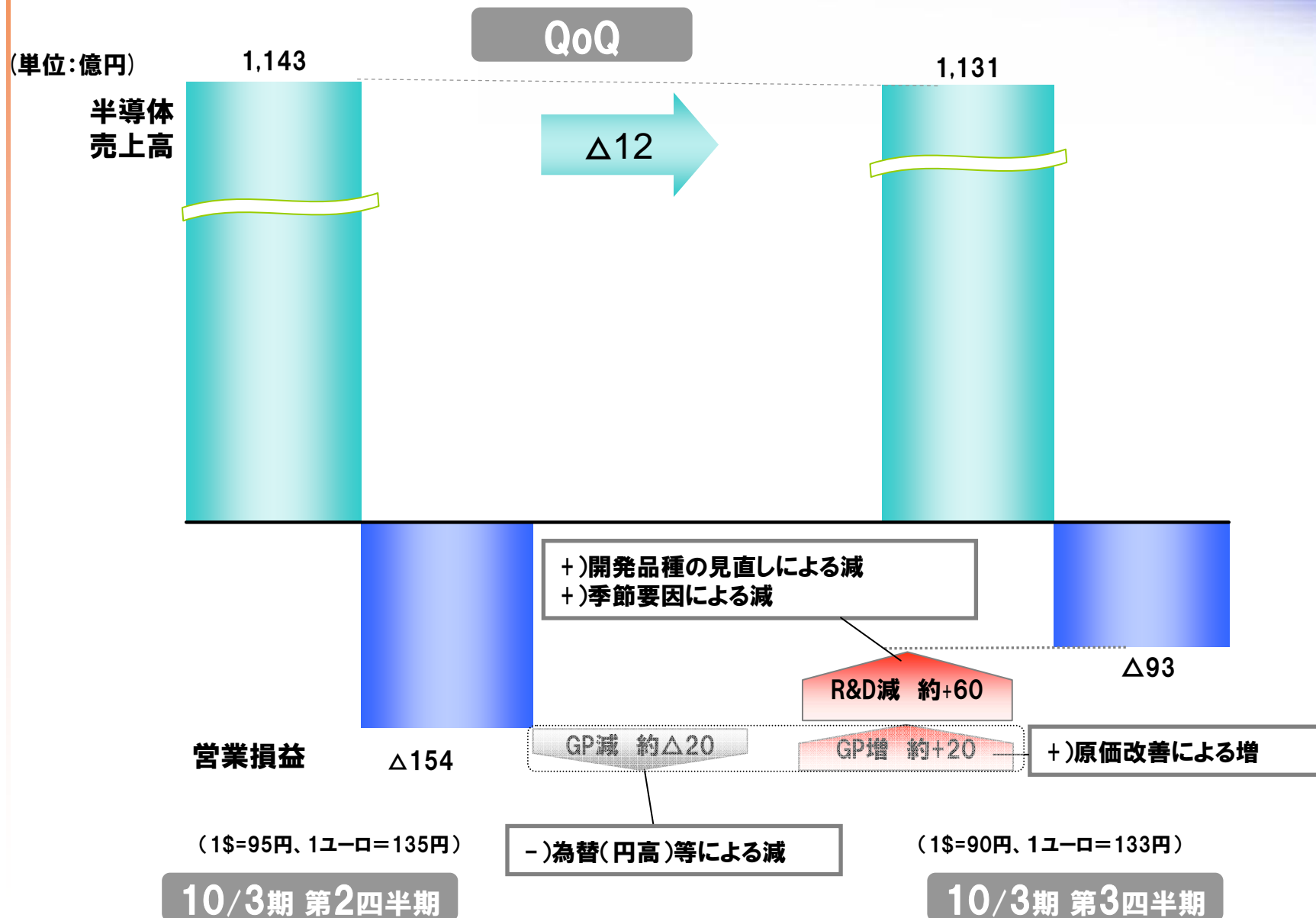


第3四半期(10-12月期) 半導体売上高(前四半期比) NEC

(単位:億円)



第3四半期 営業損益の主な増減要因



バランスシート

NEC

(単位:億円)		09/3	09/9	09/12
総資産	現金及び現金同等物	1,013	895	956
	受取手形及び売掛金	464	604	612
	たな卸資産	632	545	571
	有形固定資産	2,161	2,094	2,050
	その他の資産	612	566	510
総資産		4,882	4,704	4,699
負債	支払手形及び買掛金	612	683	781
	有利子負債	1,113	1,398	1,418
	その他の負債	1,210	1,108	1,120
	負債	2,935	3,189	3,319
純資産	株主資本	2,024	1,625	1,483
	評価・換算差額等	△122	△153	△142
	新株予約権・少数株主持分	45	42	39
純資産		1,947	1,515	1,380
負債純資産合計		4,882	4,704	4,699
D/Eレシオ(グロス)		0.59倍	0.95倍	1.06倍
自己資本比率		39%	31%	29%

注 ①現金及び現金同等物:「現金及び預金」、「有価証券」 ②たな卸資産:「商品及び製品」、「仕掛品」、「原材料及び貯蔵品」

③有利子負債:「短期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「リース債務」、「新株予約権付社債」、「長期借入金」

④自己資本:「株主資本」、「評価・換算差額等」 ⑤D/Eレシオ(グロス):有利子負債/自己資本

本資料は日本会計基準で作成しております。

キャッシュ・フロー

第3四半期のフリー・キャッシュ・フローも黒字維持

(単位：億円)	09/3期		10/3期		
	3Q	9ヶ月累計	2Q	3Q	9ヶ月累計
営業活動による キャッシュ・フロー	102	285	110	131	△8
投資活動による キャッシュ・フロー	△72	△306	△73	△82	△329
フリー・ キャッシュ・フロー	30	△20	37	49	△336
財務活動による キャッシュ・フロー	△10	△29	74	11	281

I. 2010年3月期 第3四半期 業績概要

II. 2010年3月期 業績見通し

10/3期 業績予想

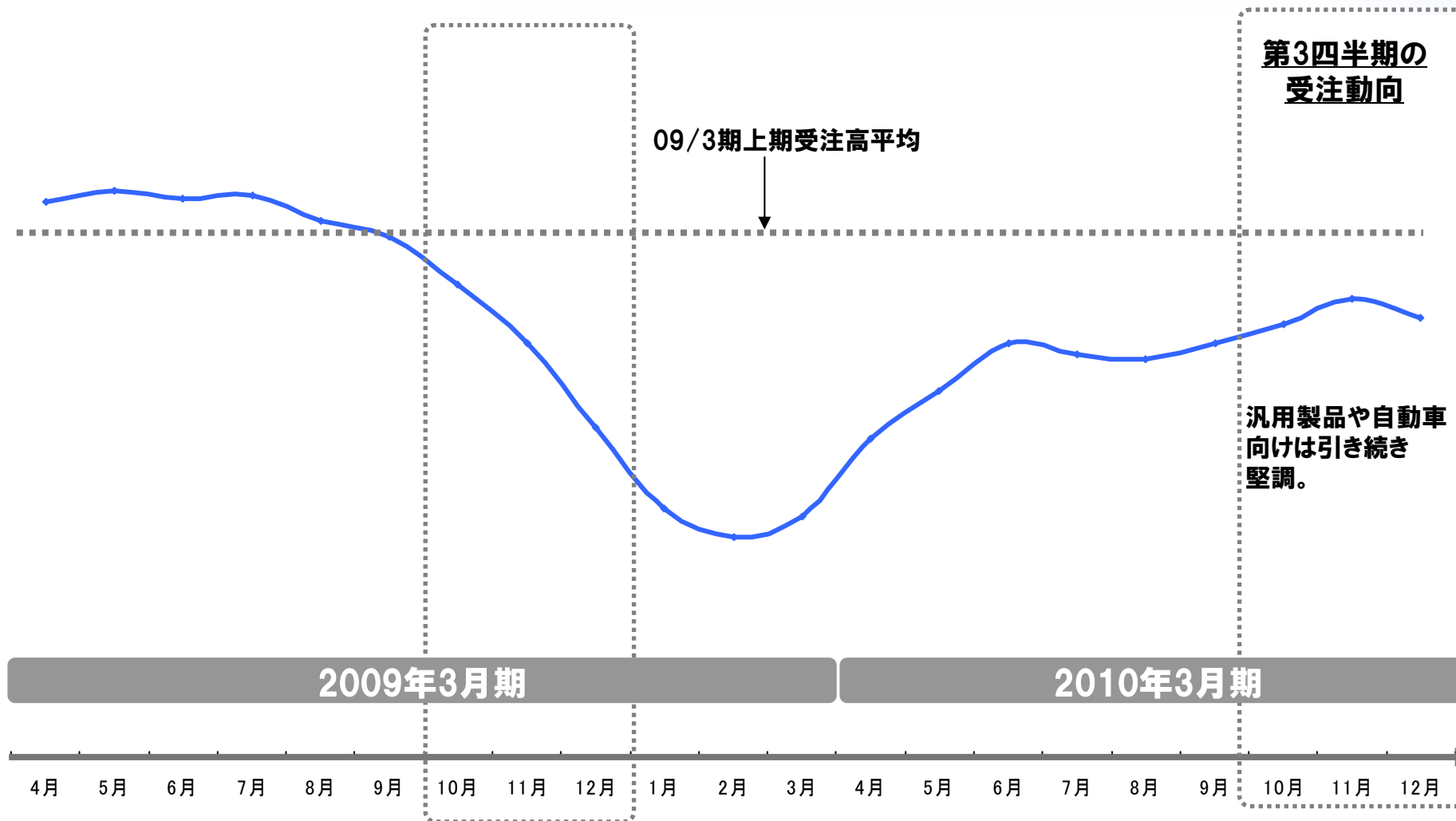
通期の業績見通しは変更なし。(日本会計基準ベース)

(単位:億円)	09/3期	10/3期					
	通期	上期		下期		通期	
	実績	実績	米国会計基準との差異	今回予想	米国会計基準との差異	今回予想	米国会計基準との差異
売上高	5,507	2,213	+8	約2,410	+約10	4,620	+20
半導体売上高	5,259	2,127	+9	約2,330	+約10	4,470	+約10
営業損益	△664	△369	△5	△約105	△約5	△475	△10
経常損益	△762	△378	-	△約135	-	△515	-
当期純損益	△851	△398	△17	△約190	△約20	△590	△40
(為替レート)							
1US\$=	101円	97円	-	90円	-	90円	-
1Euro=	146円	132円	-	130円	-	130円	-

注:予想値は2009年12月24日現在

半導体受注高の推移

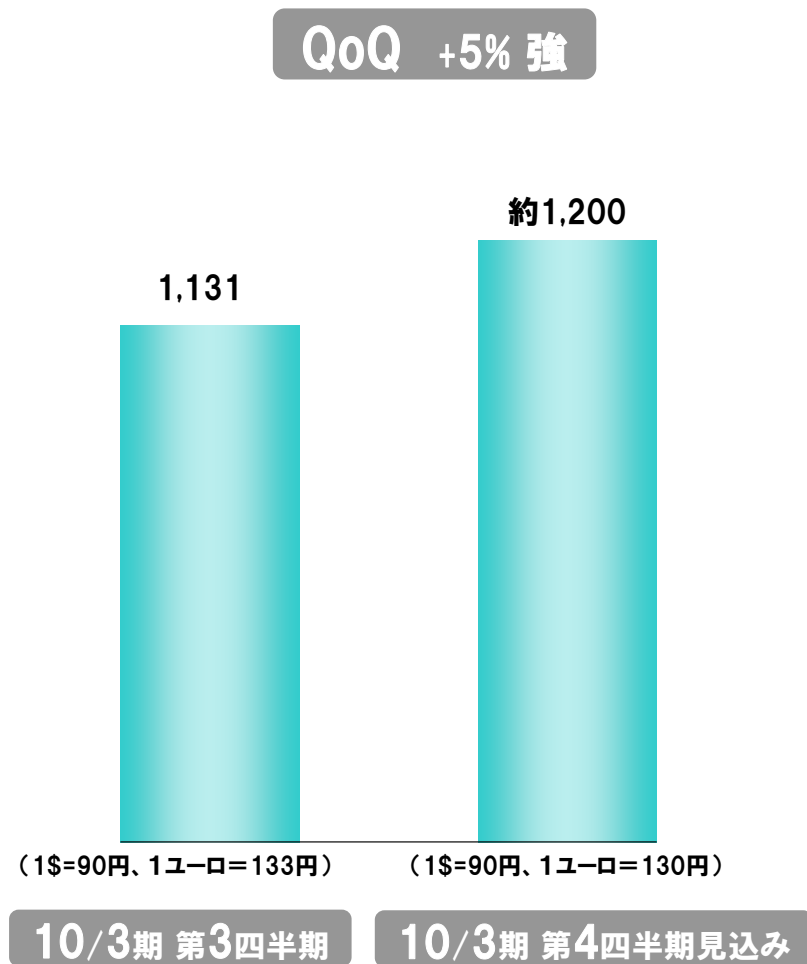
受注（3ヶ月移動平均）



第4四半期半導体売上高の見通し

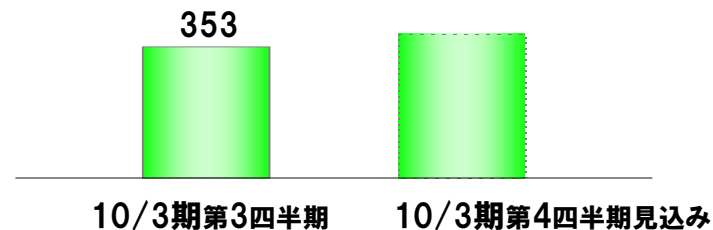
NEC

(単位:億円)



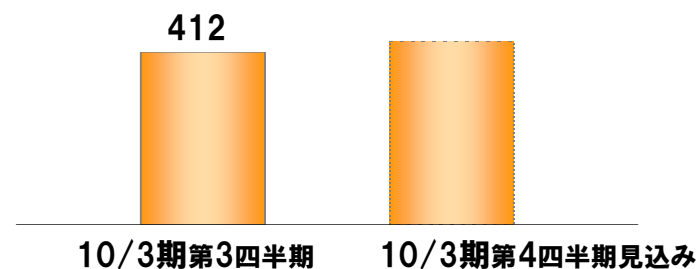
SoC +5%強

デジタルAV機器を中心に回復



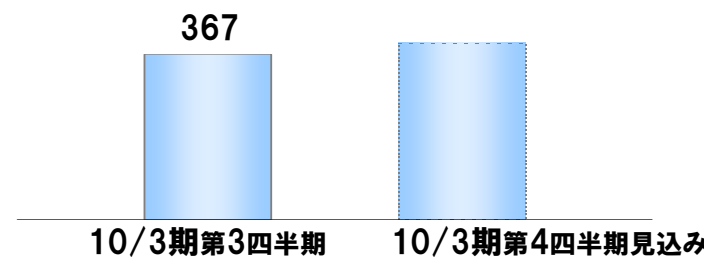
MCU +5%強

自動車向け、汎用ともに堅調



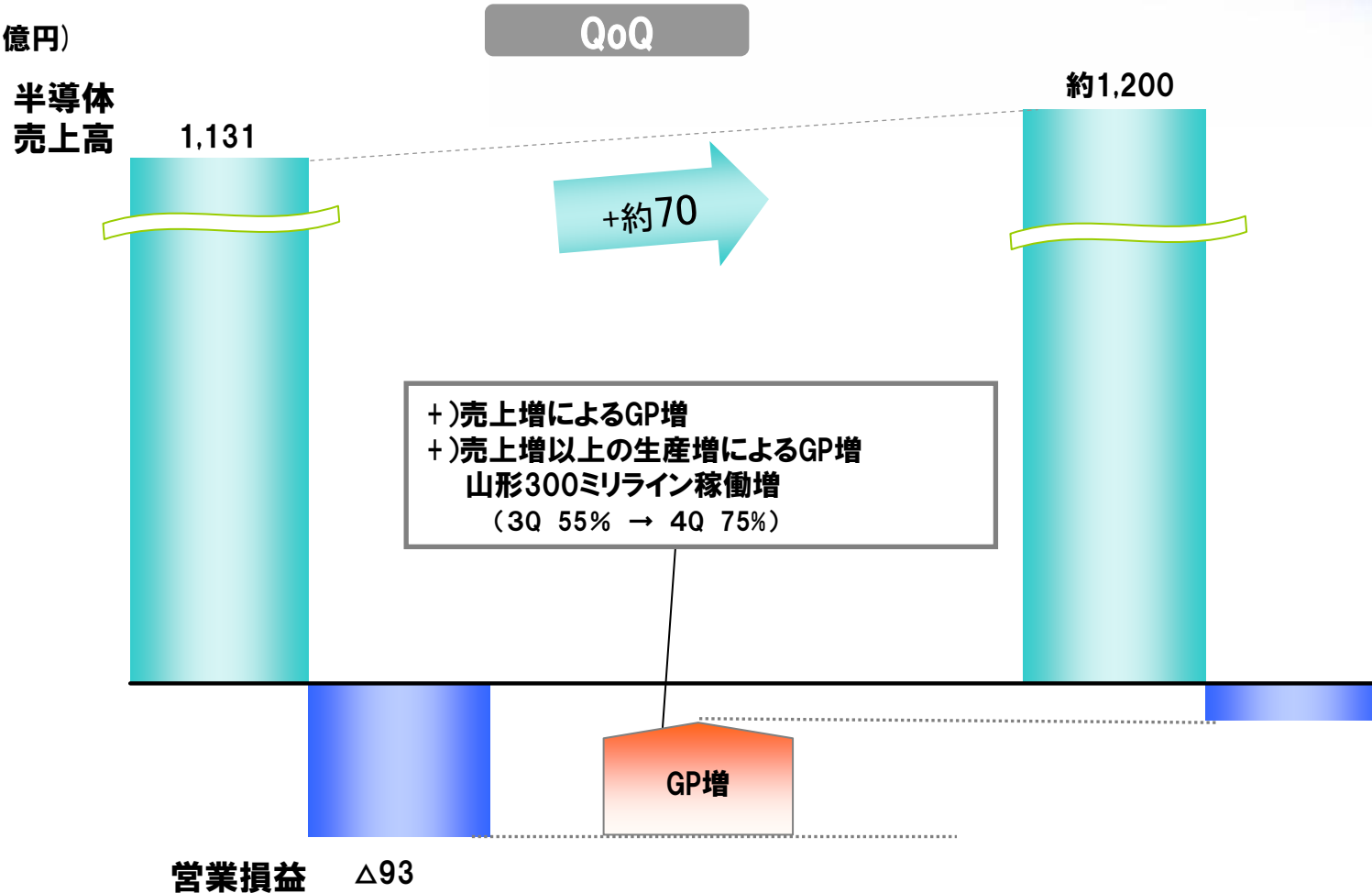
個別半導体 +5%強

全般的に堅調



営業損益見通しの主な増減要因

(単位:億円)



(1\$=90円、1ユーロ=133円)

10/3期 第3四半期

(1\$=90円、1ユーロ=130円)

10/3期 第4四半期見込み

第4四半期の取り組み

■ 増産による売上拡大と収益改善

- 受注好調なマイコン製品の生産強化による売上拡大
- 40/55nm製品の量産拡大など、300ミリラインの稼働増による収益改善

■ 下期フリー・キャッシュ・フロー黒字を維持

- 需要が強いマイコンの前工程増強、および海外拠点を中心に後工程の能力増強を行なうが、生産効率改善や設備の転用等のミニマム投資で収支黒字は維持

■ 固定費削減の遂行

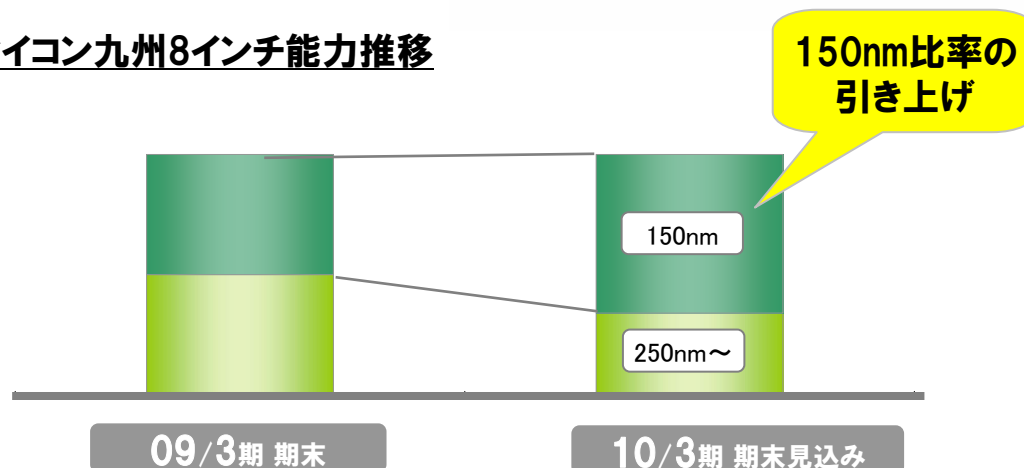
- 引き続き年間固定費削減900億円を必達

■ 構造改革の推進

- 生産統合計画を着実に遂行

生産能力の増強による売上拡大

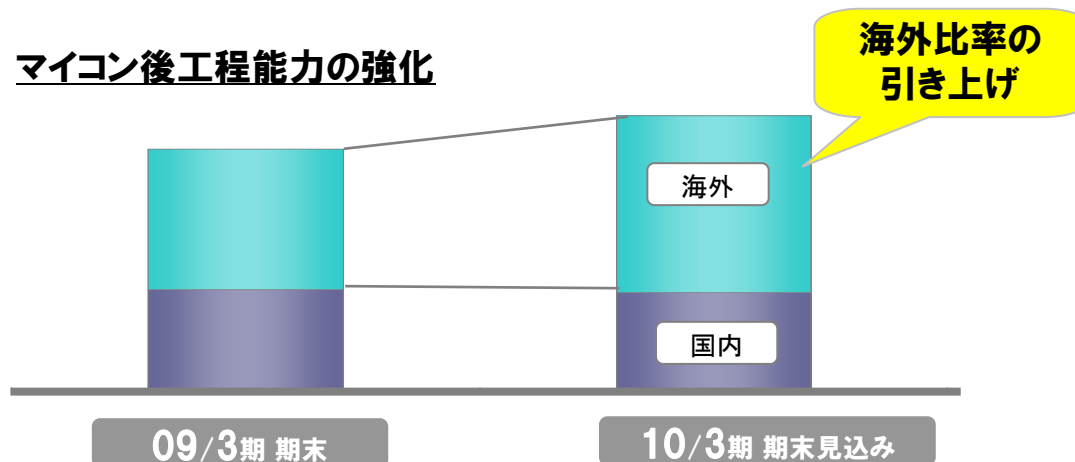
マイコン九州8インチ能力推移



九州8インチラインの微細化

- 生産性改善や旧山形8インチ設備の転用等、少ない投資で微細化
- 主にマイコンを生産する150nm比率を引き上げ

マイコン後工程能力の強化



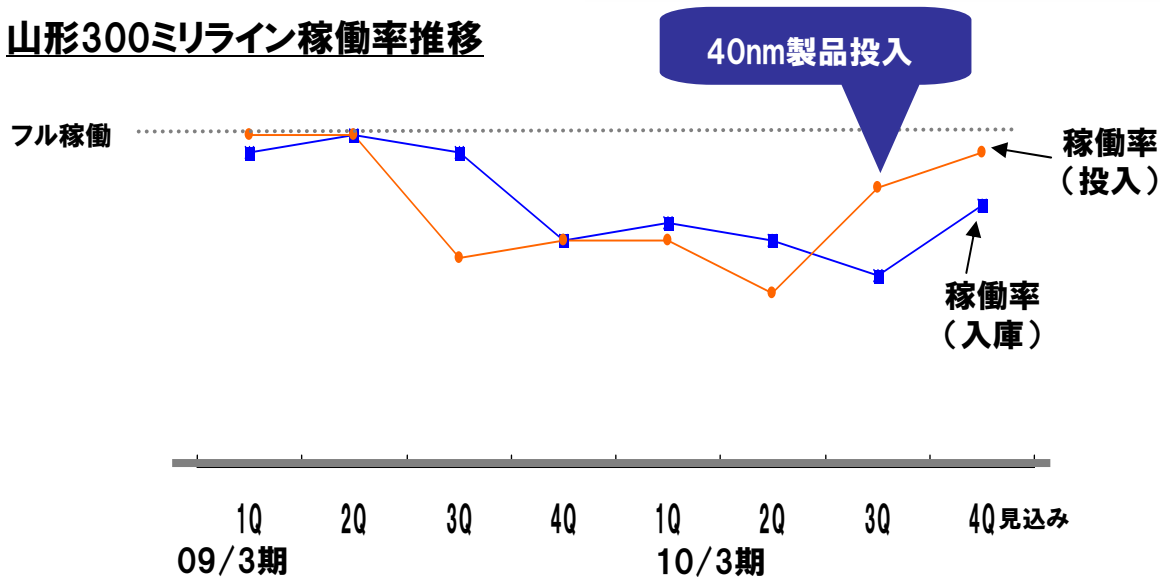
後工程ラインの能力増強

- 海外拠点を中心に能力増強

売上拡大・収益改善に向けた生産強化

300ミリラインの工場稼働率の改善と微細化の推進

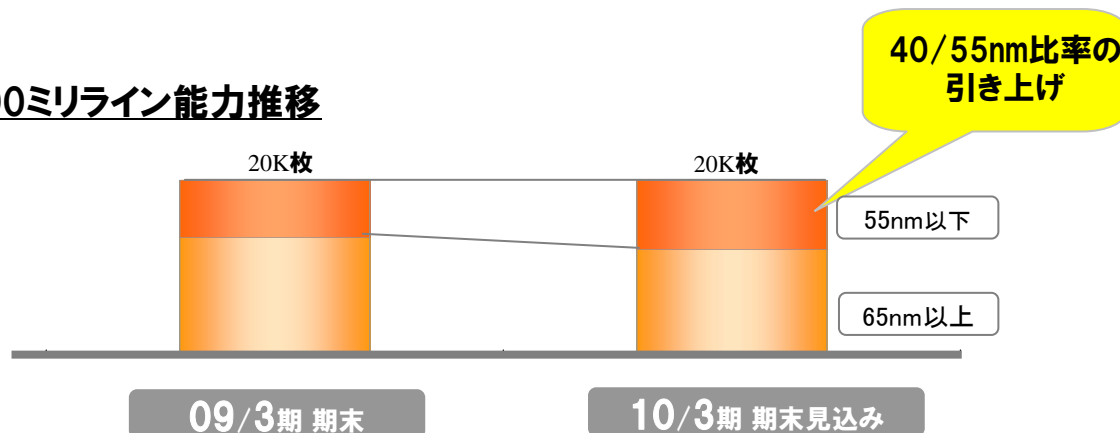
山形300ミリライン稼働率推移



山形300ミリラインの稼働改善

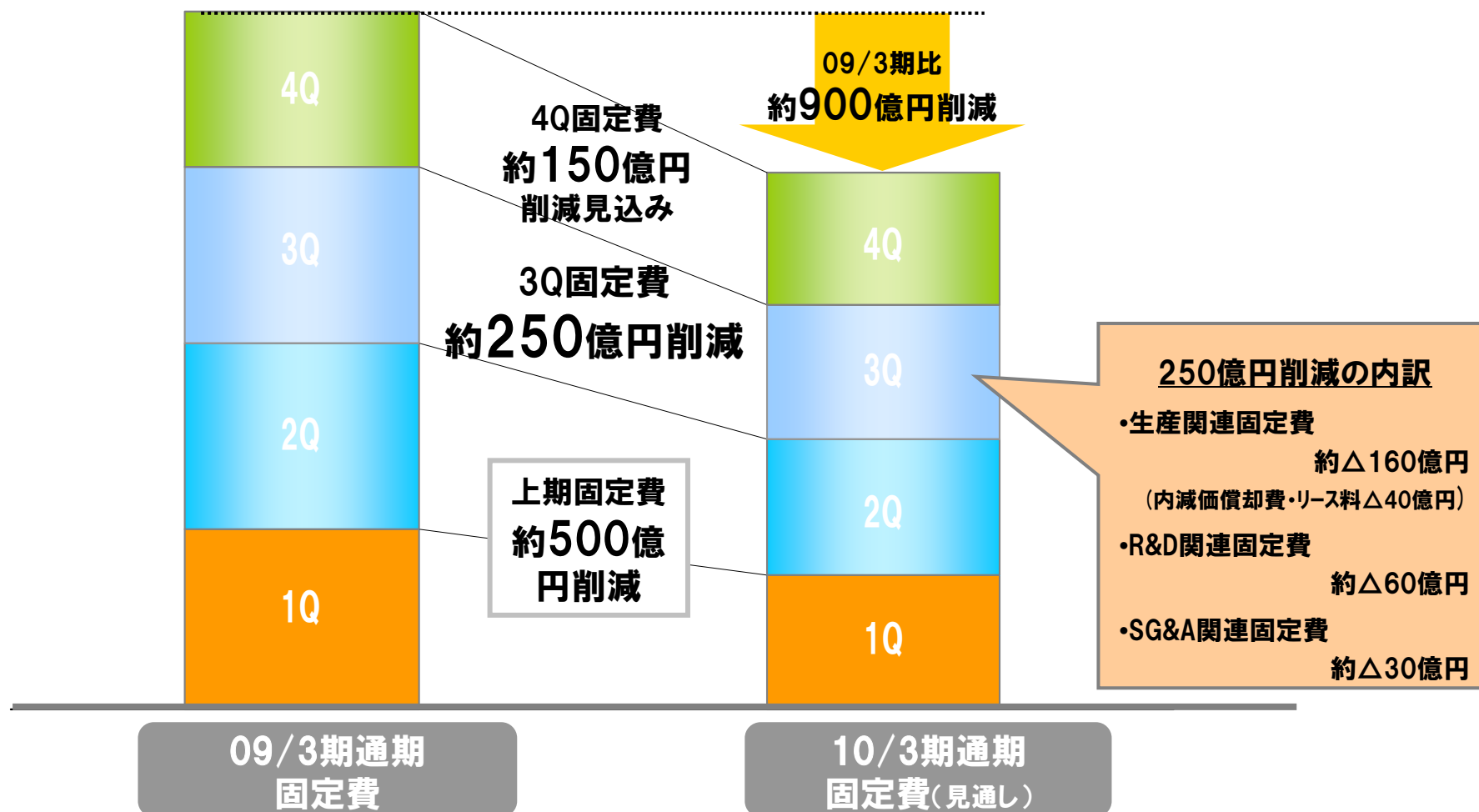
- 40/55nm製品の生産により、稼働率は改善基調
- 投入ベースでフル稼働の見込み
- 55nm以下のプロセス比率を引き上げ

山形300ミリライン能力推移



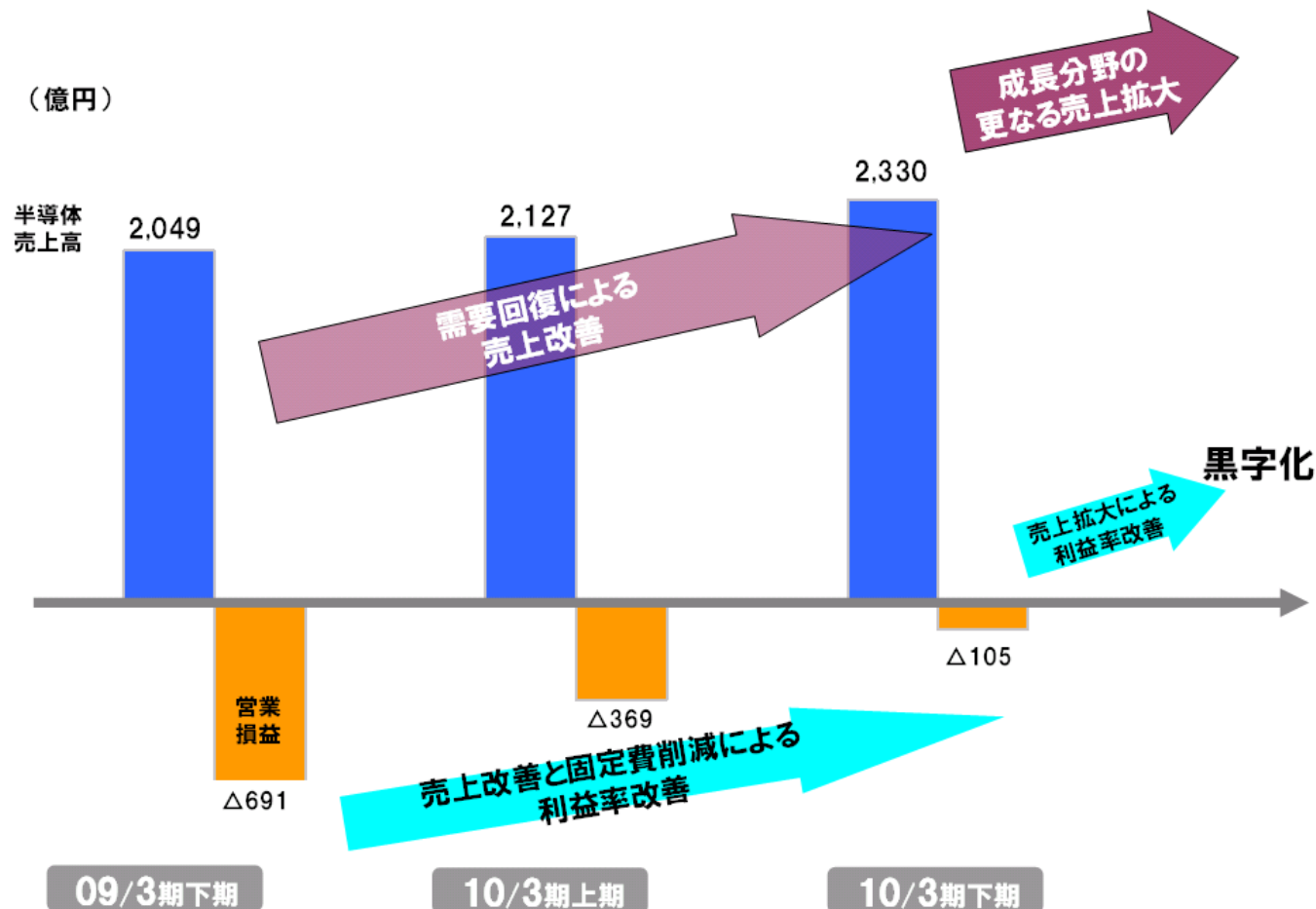
900億円固定費削減の進捗

3Qで前年同期比約250億円の固定費削減



まとめ

- 通期の業績目標達成に向けて、生産強化による売上高の拡大と、固定費削減による損益改善を進める



NEC

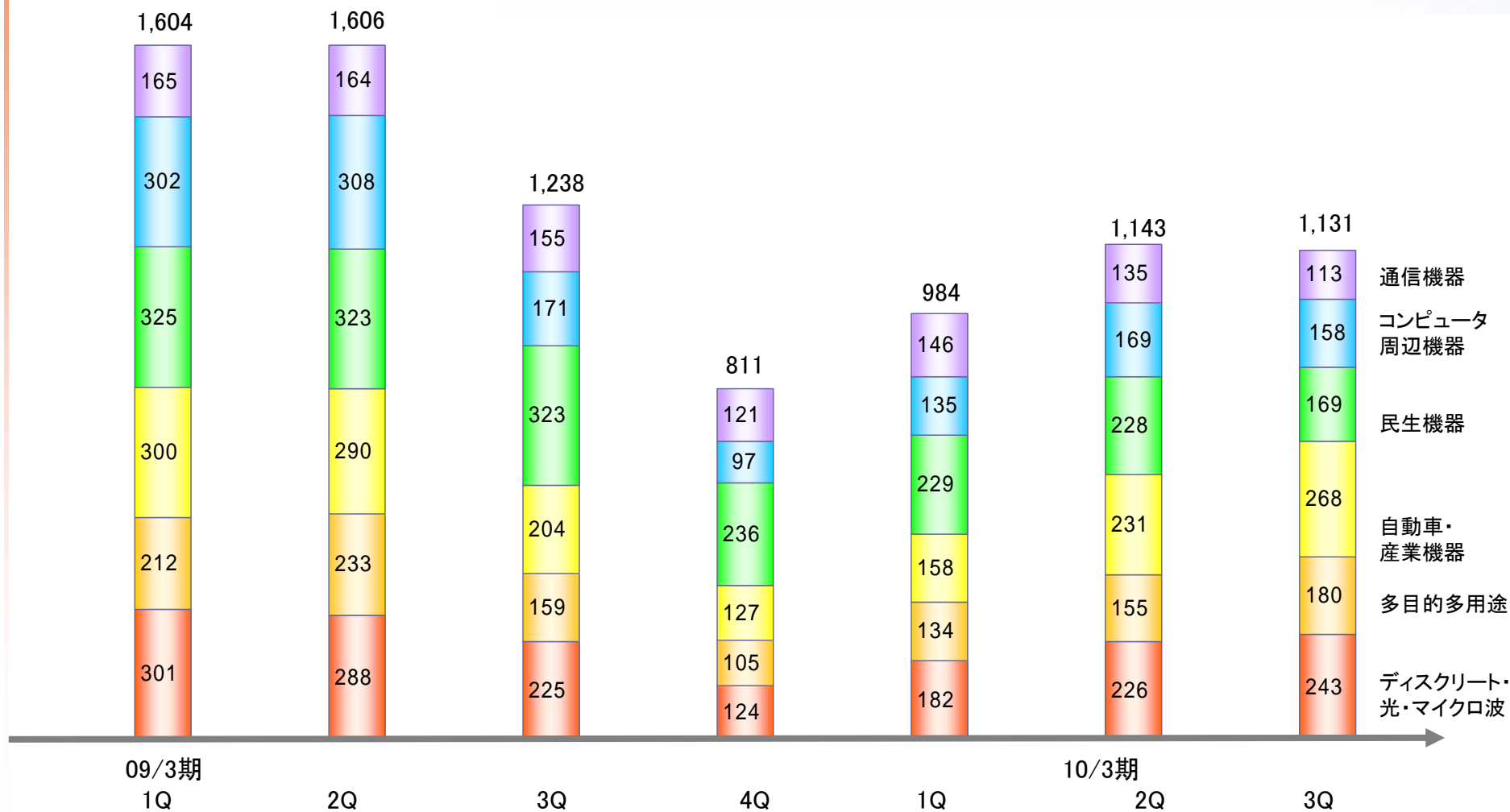
NEC Electronics Corporation

(将来予測に関する注意)

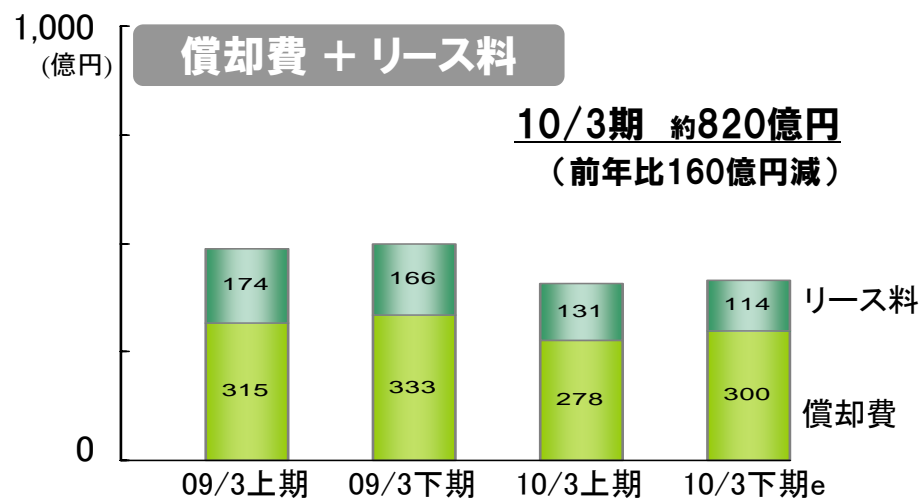
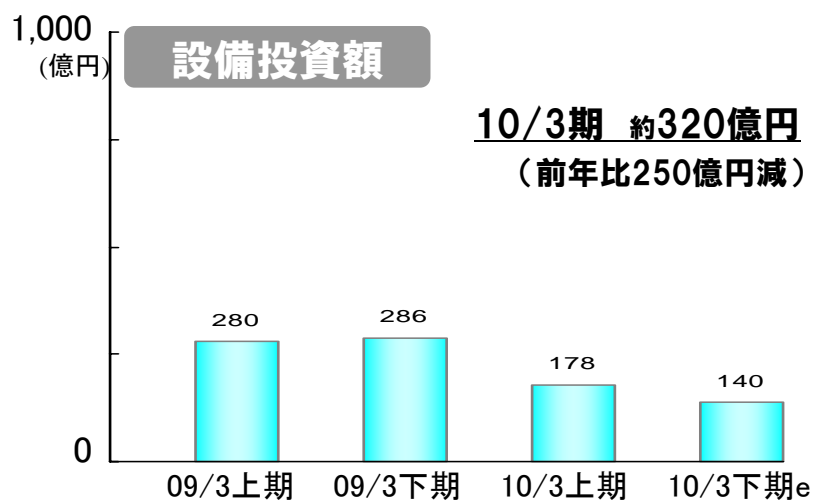
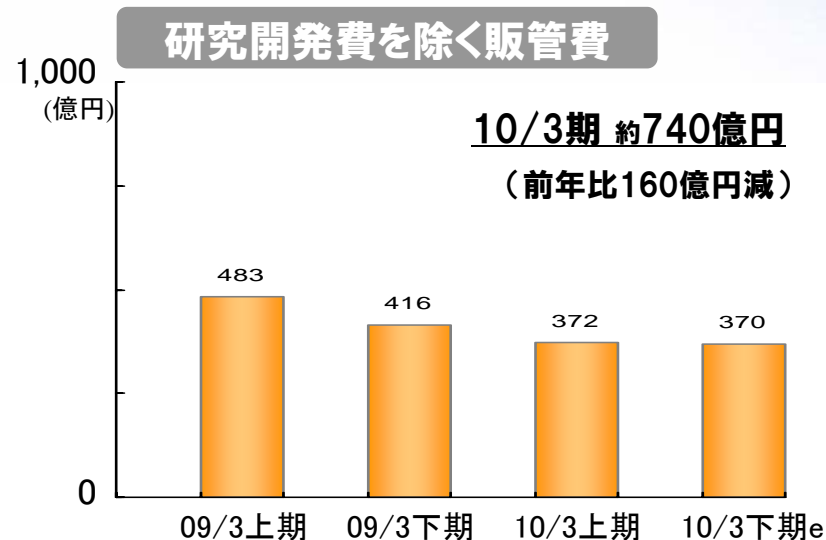
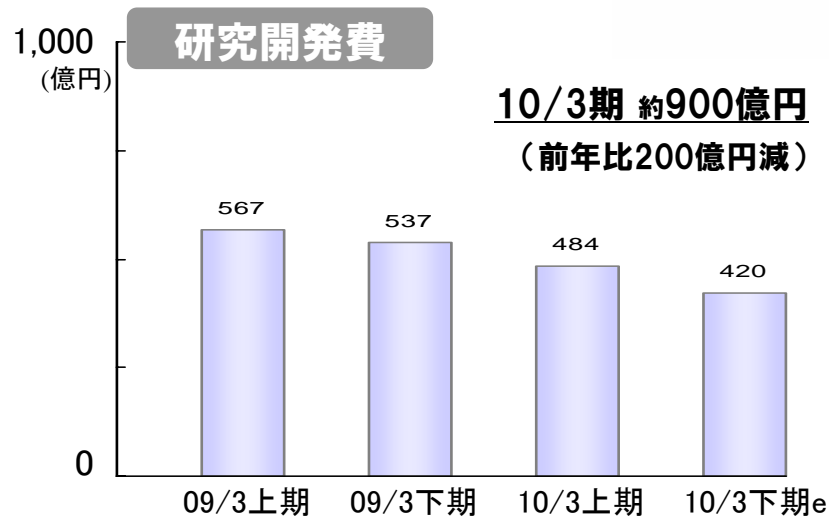
本資料に記載されている当社および連結子会社(以下NECエレクトロニクスと総称します。)の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、(1)NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

参考：分野別 半導体売上高

(単位:億円)



主な営業費用と設備投資の推移



有形のみ

償却費・リース料は、原価・研究開発費・販売管理費に含まれます
償却費はキャッシュ・フロー表ベース